

2022. 8. 3

全駅にホーム柵を設置するとともに、 全駅のバリアフリー化を目指します

～鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、バリアフリー設備の整備を推進します～

阪急電鉄では、国および沿線自治体にご協力いただきながら、ご高齢のお客様やお身体の不自由なお客様にも駅や電車を安全・安心・快適にご利用いただけるよう、可動式ホーム柵やエレベーター等のバリアフリー設備の整備に取り組んでまいりました。

今後は、その取組をさらに加速するため、特に早期の整備が求められているホーム柵（可動式または固定式）を全駅に設置し、ホーム上の安全性を高めてまいります。また、駅の構造上の問題から当社線内で唯一、バリアフリールートの確保が困難であった中津駅においてもエレベーター等を整備し、全駅のバリアフリー化を目指します。

なお、これらのバリアフリー設備の整備については、2021年12月に国により創設された「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用いたします。

詳細は次ページ以降のとおりです。



可動式ホーム柵（十三駅3号線ホーム）



エレベーター（西院駅）



1. 今後の主なバリアフリー設備の整備について

当社では現在、ホームの安全性を高め、すべてのお客様が安全に、また安心してホームをご通行いただけるよう、十三駅（3・4・5号線）ならびに神戸三宮駅に可動式ホーム柵を設置していますが、2040年度末頃までに、全駅にホーム柵（可動式または固定式）を設置するよう進めてまいります。

また、2022年度中には春日野道駅でのバリアフリー設備の整備を完了する予定ですが、中津駅についてもエレベーターの設置等によりバリアフリールートを確保するとともに、可動式ホーム柵を併せて整備することにより、全駅のバリアフリー化を目指してまいります。

2. 鉄道駅バリアフリー料金制度の活用について

当社では、2021～2035年度の間バリアフリー設備を整備するための費用は、900億円を超える見込みですが、この整備をより迅速かつ着実に進めるため、2021年12月に国により創設された「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用させていただくこととしました。今回、運賃に加算して収受させていただく鉄道駅バリアフリー料金は、全てバリアフリー設備の整備費等に充当いたします。

なお、本日、国土交通省近畿運輸局に料金設定およびバリアフリー整備・徴収計画の届出を行いましたが、その概要は以下のとおりです。

- ① 料金収受期間 2023年度～2035年度 （2036年度以降も継続予定）
- ② 料金設定区間 阪急線全線（神戸高速線を除く）
- ③ 料金設定額（大人）

普通券	通勤定期券			通学定期券
	1か月	3か月	6か月	
10円	380円	1,080円または 1,090円	2,050円または 2,060円	設定なし

◎小児は鉄道駅バリアフリー料金加算後の大人の半額となります。

◎料金の詳細につきましては、当社のホームページでお知らせします。

- ④ 料金収受の開始時期
2023年4月1日（土） 予定

お客様からのお問い合わせ先

阪急電鉄交通ご案内センター 【平日9:00～22:00および土・日・祝日9:00～19:00】

TEL：0570-089-500（固定電話からは市内通話料金でご利用可能）

TEL：06-6133-3473

（以 上）

【添付資料】 ご参考資料、バリアフリー整備・徴収計画

【ニュースリリース配付先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、国土交通記者会

これまでのバリアフリー化の取組について

(1) 駅の主なバリアフリー化の状況

当社線 86 駅（神戸高速線および天神橋筋六丁目駅を除く）のうち、2022年8月3日現在の主なバリアフリー設備の整備状況は次のとおりです。

整備内容	整備状況（駅数）
エレベーター、スロープの設置によりバリアフリー化されている駅	84 駅（整備率約 98%）
車椅子用トイレが設置されている駅	83 駅（整備率約 97%） ※うち 73 駅はオストメイト対応の水洗器具を設置しているバリアフリースイートイレ
エレベーターが設置されている駅	68 駅 191 基
エスカレーターが設置されている駅	42 駅 250 基
可動式ホーム柵が設置されている駅	2 駅（十三駅（3・4・5号線）、神戸三宮駅）



エレベーター（洛西口駅）



バリアフリースイートイレ（淡路駅）



可動式ホーム柵（神戸三宮駅）

(2) 車両の主なバリアフリー化の状況

当社の最新型車両である 1000 系、1300 系では、扉の開閉予告装置や車内案内表示器を設置するとともに、車椅子スペースの拡大を図っており、その他の車両においても、リニューアル工事にあわせて、こうした設備の導入を進めています。



扉の開閉予告装置



車内案内表示器



車椅子スペースの拡大

なお、2020年度からは、視覚に障がいのあるお客様に車両の乗降口の位置をお知らせするため、扉が開いている間、誘導音が鳴動する機能を順次導入しています。

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	阪急電鉄株式会社
---------	----------

整備方針	
全期間	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様に安心してご利用いただけるよう、ホーム保安度の向上を目的として可動式ホーム柵ならびに固定式ホーム柵、ホームと車両の段差隙間解消に資する設備を整備する。 ・中津駅のバリアフリー設備（エレベーター）を整備する。 ・車両のフリースペースを整備する。 ・各駅に設置のエスカレーター、エレベーターの更新を行う。
2021～2025年度	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様に安心してご利用いただけるよう、ホーム保安度の向上を目的として可動式ホーム柵ならびに固定式ホーム柵を整備する。 ・車両のフリースペースを整備する。 ・各駅に設置のエレベーター、エスカレーターの更新を行う。
2026年度以降 (2035年度まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様に安心してご利用いただけるよう、ホーム保安度の向上を目的として可動式ホーム柵ならびに固定式ホーム柵、ホームと車両の段差隙間解消に資する設備を整備する。 ・中津駅のバリアフリー設備（エレベーター）を整備する。 ・車両のフリースペースを整備する。 ・各駅に設置のエレベーター、エスカレーターの更新を行う。

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※1	－
年間徴収額 (百万円)	2,525百万円 ※2		1,147百万円	－
料金徴収 対象駅	全86駅（神戸高速線内除く）			
備考	※1：1か月380円、3か月1,080円または1,090円、6か月2,050円または2,060円 ※2：普通回数券、団体乗車券、貸切乗車券、一部の企画乗車券を含む 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途通知する。			

年間徴収額	3,672	百万円
徴収期間	13	年間（2023.4.1～2036.3.31） ※2036年度以降も継続予定
総徴収額	47,780	百万円
総整備費	91,258	百万円
	2021～2025年度の計画	17,222 百万円
	2026～2035年度の計画	74,036 百万円 ※2036年度以降も継続予定

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	8 駅	24 番線	11,309 百万円
固定式ホーム柵	14 駅	25 番線	1,575 百万円
バリアフリースイレ	1 駅	1 ヶ所	21 百万円
車両のフリースペース	6 編成	48 両	67 百万円
備考			
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
エレベーター	17 駅	26 基	953 百万円
エスカレーター	11 駅	48 基	1,284 百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（附帯費用含む）	1,713	百万円	
収受システム改修費	50	百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)	250	百万円	
備考	維持管理費：エレベーター、エスカレーター、可動式ホーム柵		

■ 整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

■ 整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	17,222 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	24	番線

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2036.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	58 駅 143 番線	57,783 百万円 ※1
固定式ホーム柵	3 駅 8 番線	504 百万円
エレベーター	1 駅 2 基	2,270 百万円 ※2
車両のフリースペース	29 編成 218 両	305 百万円
備考	※1：ホームと車両の段差隙間縮小に資する設備の整備費含む ※2：中津駅バリアフリー化工事費含む	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	各駅 ※3	2,250 百万円
エスカレーター	各駅 ※3	2,850 百万円
備考	※3：設備の状態に応じて順次更新予定	
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	8,074	百万円
収受システム改修費	-	百万円 ※4
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	-	百万円 ※4
備考	・維持管理費：エレベーター、エスカレーター、可動式ホーム柵 ※4：2036年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費およびその他の必要について、本様式には計上していない。	

■整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

■整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	74,036 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	143	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	1 駅
	二経路以上確保駅	駅